令和４年度　主題研究推進計画

北九州市立貫小学校

１　研究主題

複数教科における「『学びの質を高める授業』５つのポイント」をふまえた授業づくり＜２年次＞

２　研究計画

「めあてを設定する場」の工夫と、「まとめと振り返りの場」の工夫　＜１年次＞

↓

「学び合いの場」の工夫　＜２年次＞

↓

「学びの質を高める授業づくり」のまとめ　＜３年次＞

３　主題設定の理由

〇昨年度までの研究の成果と反省から

本校では、昨年度から３年計画で「複数教科における「『学びの質を高める授業』５つのポイント」をふまえた授業づくりに取り組んできた。１年次となった昨年度は、新型コロナウイルス感染症による様々な制限や４０分授業の影響があり、教科を限定せず学年で教科をそろえて研究を進めた。昨年度の成果と課題は以下の様になっている。

（１）「めあてを設定する場」の工夫について

【成果】

めあてを子ども達が、互いの発言を聞きながら立てようとする意識が高まってきた。何を学習するかに意識が向くことで、少しずつ自らまとめられることも増えてきている。また、まとめや振り返りと、次時のめあてがつながったり、既習内容を取り入れてみたりするなど、めあてとまとめを意識することで、学習がつながっていくことも増えてきた。

また、子ども達が自分達でめあてを設定する習慣が定着したことにより、教師もねらいとするめあてが引き出せるように自作のパワーポイントを使った資料を作成したり、デジタル教科書を活用したりして、工夫する姿が多く見られた。

【課題】

子どもたちの問題把握が抽象的なまま考えさせたことで、難しさを生じさせた場面が見られた。文章と図だけで問題を把握させるのではなく、さらに踏み込んで図を使って具体的操作をさせることや子どもに実際に体感させる活動を取り入れることで、より問題を把握しやすくできた。そうすることで、学習内容に明確な見通しをもたせることができ、めあて、見通し、個人思考の流れがスムーズになり、学び合いを深めることにつながると思う。

また、既習事項がしっかりと身についていないとそれ以降の学習に生かすことができない。既習事項を数・図形・数量関係などに分類して掲示したり、前時の振り返りから次時のめあてをつくれるよ

うに振り返りを重視して時間を確保したりする必要がある。

（２）「子どもの思考を助ける板書」

【成果】

問題把握→めあて→見通し→個人思考→集団思考→まとめ→振り返りという流れが定着してきたことで、板書もその流れに沿ったものになってきた。それに伴い、児童のノートも板書と同様になり、子どもの思考の流れが明確になってきた。

低学年では、ノートのマス目の数に合わせて丁寧に板書を行っていた。また、児童が考えを書き込めるようにしたり、学習の流れがつかみやすいようにしたりするためにワークシートを用意する学級も多かった。

【課題】

児童が意欲的に学習に取り組むようになり、活発に意見を述べる姿が多く見られた。一方で、黒板に書く文字の精査や、図で簡潔に示していくことが課題となる。子どもの考えを全て書いてしまうことに終始してしまいがちであるが、黒板にたくさんのことが書かれていると、書き写すのに手一杯となる児童もいる。

このことから、事前の板書計画と多様な考えを引き出した後、どう整理して板書をつくっていくかを検討する必要がある。

（３）「まとめと振り返りの場」の工夫

【成果】

めあてを子ども達が設定するようにしたことで、子ども達が本時のめあてに対応するまとめを考えるようになった。また、振り返りは㋐（分かったこと）㋑（考えたこと）㋒（次につながりそうなこと）㋓（ためになりそうなこと）㋔（よかったこと）という視点をもたせたり、低学年は絵で表したりして、子ども達が着実に行えるようになってきた。

【課題】

前時までのノートを見返すと、振り返りの言葉が単調になっている児童が見られる。このことから、全校で統一した振り返りの視点をもたせ、１年生から継続して行っていく必要がある。また、１時間内に確実に振り返りができるように、教師側が模擬授業を行うなどして綿密に授業展開を練っていかなければならない。

〇北九州市のめざす授業づくり

―昨年度まで、北九州市では『「わかる授業」づくり』を通して学力・体力の向上を図ってきた。その際、授業づくりの一つの指針となっていたのが【「わかる授業」づくりの５つのポイント】であった。昨年度からから学びの質に着目して具体化し、「より分かりやすく」「より使いやすい」資料として「『学びの質を高める授業』５つのポイント」が示されている。

どのポイントにもステップが１から４まであり、最終的に目指す「子どもに育成すべき能力」と「教師が身に付けるべき授業力」として示されている。

〇本校児童の実態から

全国学力テスト、北九州市学習状況調査ともに市の平均を下回る状況が続いている。毎年自校採点を行っているが、「論理的な思考力・判断力・表現力が不十分」であることが、大きな課題となっている。

このことを解決するために、昨年度は「めあてを設定する場」の工夫と、「まとめと振り返りの場」の工夫に着目して研究を進めてきた。前記した通り、めあてを子ども達が設定するようにしたことで、子ども達が、互いの発言を聞きながらめあてを設定しようとする意識が高まり、子ども達が本時のめあてに対応するまとめを考えるようになった。また、振り返りの視点をもたせたり、絵で表したりして、着実に行う習慣がつき、基本的な学習スタイルが全校で確立した。

今年度は昨年度確立した基礎事項を基に、授業の中心となる「学び合いの場（話し合う活動と書く活動）」をより充実したものにすることにより、ここ数年の本校児童の課題である「論理的な思考力・判断力・表現力が不十分」であることを解決する研究を進めていく。

その具体的手立ての１つとして、情報端末を活用することを取り入れ、有効的な活用の仕方を模索していくことにより、児童の深い学びへとつなげていく。

４　今年度の研究仮説

「『学びの質を高める授業』の５つのポイント」をふまえ、「学び合いの場（話し合う活動と書く活動）」をより充実したものにすることにより、論理的な思考力・判断力・表現力を伸ばすことができるであろう。

＜着眼１＞「問い」と「気付き」を促す発問の工夫

＜着眼２＞　タブレット端末を活用した学びの工夫

＜着眼３＞「考えを深める」話し合う活動と書く活動の工夫

５　仮説実証のための具体的な方策

（１）「問い」と「気付き」を促す発問の工夫

〇　ねらいに向かい、子どもから多様な考えを引き出す発問を行う。（個人思考の場面、主発問）

〇　子どもの気付きを広げることができるよう、子どもの思いや考えを机間指導等で把握し、「意図的指名」を行う。

〇　必要に応じて子どもに合ったワークシートやヒントカードを個別に使用するなど、座席支援表による支援計画を立てる。

（２）タブレット端末を活用した学びの工夫

〇　画像や動画、文字などの様々なデータを入手・選択できる機能を生かして、自分の考えをより分かりやすく伝える資料の制作活動や表現活動を充実させる。

〇　個々が異なる情報を入手することによって、多様な考えを生む学習活動を充実させる。

（３）「考えを深める」話し合う活動と書く活動の工夫

○　話し合い方や進め方が分かるよう、「話し方・聞き方」のきまりや「話し合いの型」を使う。
○　書く活動において思考内容を焦点化・可視化するシートやカードを活用する。
○　考えの広がりや深まりを自覚できるよう、話し合いの後にノートやカード類で「考えの再構築」する場を設定する。

６　年間予定（８／２現在）
６月～　７月　研究主題と研究推進案の作成（田中）
９月７日　ＩＣＴ活用研修（担当指導主事）
９月～１１月　各学年授業
１２月　研究のまとめと研究紀要原稿の作成
２月　研究紀要の作成　　主題研究の振り返り　　来年度について

７　授業公開の形態（全学年が授業を公開する）
今年度は学年１本のＢ研とする。
・管理職、研究主任、低・中・高のシマごとおよび希望者で授業を参観し、協議会を行う。協議会は演習方式で行う。
・教科は国・算・理・社の主要教科の中から選択する。その他の教科の場合は要相談。
※　授業の記録（写真など）や協議会の進行・記録は同学年で行う。（タブレットを使った写真・動画撮影。
※　今年度は「３密」を避けるため、Ａ研は行わない。

８　指導案の形式
今年度は板書型の指導案に統一する。（新採教諭研修は従来型）

９　その他
下記の教諭及び講師は、１２月末までに授業実践報告書提出しなければならないため、主題授業と兼ねてもよい。

３の１　安田　　３の２　平川（締切１１月１８日）　　３の３　城戸
５の２　林　　６の２　広本　　すまいる２組（桑名）